



# 奈良県感染症情報

令和元年 第24週(6月10日～6月16日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより 6月 2018/19シーズンのA群ロタウイルスの検出状況について

## 手足口病警報発令です！！

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	5.74	(3.41)	↑↑	↑	↑↑	→
2	感染性胃腸炎	3.91	(5.18)	↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.68	(2.41)	→	↗	→	↑
4	咽頭結膜熱	0.79	(0.50)	↗	↗	↗	→
5	ヘルパンギーナ	0.71	(0.79)	↑	↑↑	↑	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

### ◆ 県内概況 ◆

手足口病の定点当たりの報告数が警報開始基準値の「5」を超え、「5.74」となり、警報発令となりました。

特に中和保健所管内西部地域では、「15.33」と非常に高値となっています。奈良県の警報発令時期は、直近で発令があった平成29年の第27週(7月3日～9日)より3週早くなっています。近畿府県でも、大阪府をはじめ流行がみられており、今後も流行が続くことが予想されます。手足口病は、乳幼児だけでなく、大人にも感染することが知られています。大人の方は乳幼児のおむつ交換にも注意を払い、手洗い・うがいの徹底、タオル等の共有をさけることで、感染症予防に努めましょう。

### ❖ 小児科外来情報 ❖

#### 北部地区(矢追医院)

感染症関連の外来患者は減っています。最近では夏かぜが目立ってきています。手足口病、咽頭結膜熱(プール熱)が保育園児でみられ、溶連菌感染症も続いています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

手足口病が大流行中。  
水痘、ヘルパンギーナも多く、伝染性紅斑が1例あった。  
インフルエンザはこの2週、見られずほぼ終焉した。  
hMP肺炎も減少したがまだ見られた。感染性腸炎も流行持続。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ウイルス性胃腸炎、夏カゼに伴う下痢症多し。カンピロバクター腸炎も数名みられた。  
手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱も増加している。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

令和 1 年 第 24 週 6 月 10 日 ~ 16 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	14	14	11	10	2	4	
インフルエンザ	7 (0.13)	4 (0.29)	1 (0.07)	1 (0.09)	1 (0.10)			
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2	
RSウイルス感染症	2 (0.06)				2 (0.33)			
咽頭結膜熱	27 (0.79)	3 (0.33)	6 (0.67)	7 (1.00)	10 (1.67)		1 (0.50)	
A群溶連菌咽頭炎	91 (2.68)	14 (1.56)	19 (2.11)	25 (3.57)	26 (4.33)		7 (3.50)	
感染性胃腸炎	133 (3.91)	26 (2.89)	33 (3.67)	42 (6.00)	32 (5.33)			
水痘	17 (0.50)	5 (0.56)	6 (0.67)	5 (0.71)			1 (0.50)	
手足口病	195 (5.74)	20 (2.22)	34 (3.78)	48 (6.86)	92 (15.33)		1 (0.50)	
伝染性紅斑	13 (0.38)	7 (0.78)	4 (0.44)	2 (0.29)				
突発性発しん	19 (0.56)	3 (0.33)	4 (0.44)	8 (1.14)	4 (0.67)			
ヘルパンギーナ	24 (0.71)	3 (0.33)	14 (1.56)	5 (0.71)	2 (0.33)			
流行性耳下腺炎	5 (0.15)	3 (0.33)	1 (0.11)		1 (0.17)			
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	7 (0.70)		2 (0.67)	2 (1.00)	3 (1.50)			
基幹定点数	6	1	2	1	1	0	1	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎	1 (0.17)				1 (1.00)			
マイコプラズマ肺炎	1 (0.17)		1 (0.50)					
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	1 (0.17)		1 (0.50)					

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市1、中和3、吉野1)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症1件(奈良市1)
4類感染症	レジオネラ症1件(吉野1)
5類感染症	後天性免疫不全症候群1件(中和1) 侵襲性肺炎球菌感染症1件(郡山1) 水痘1件(奈良市1) 梅毒3件(中和2、吉野1) バンコマイシン耐性腸球菌感染症1件(郡山1) 百日咳1件(中和1)

❖ 第 24 週のトピックス ❖

◆国立感染症研究所:日本の輸入デング熱症例の動向について(更新)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/dengue-imported.html>

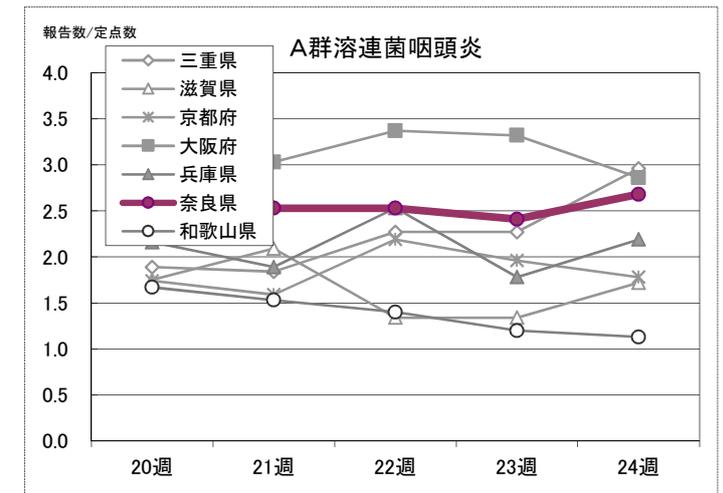
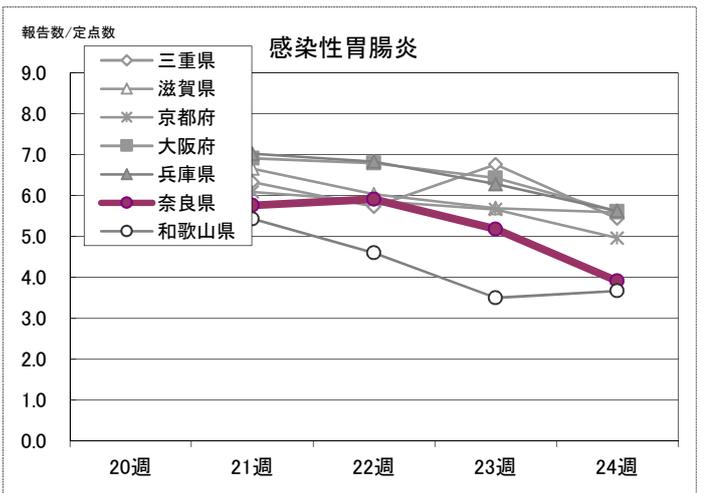
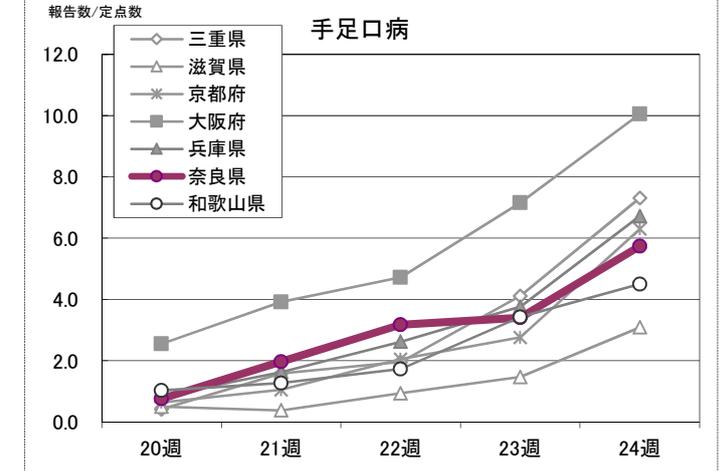
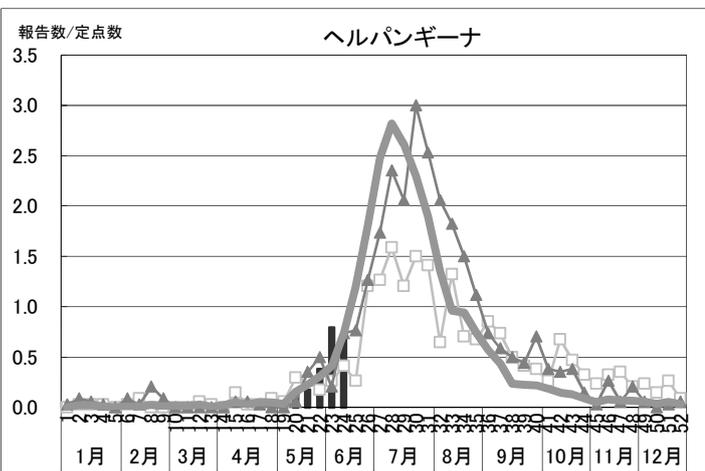
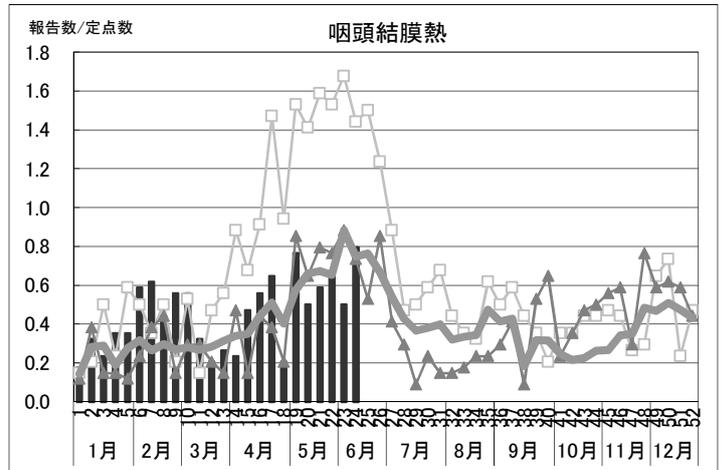
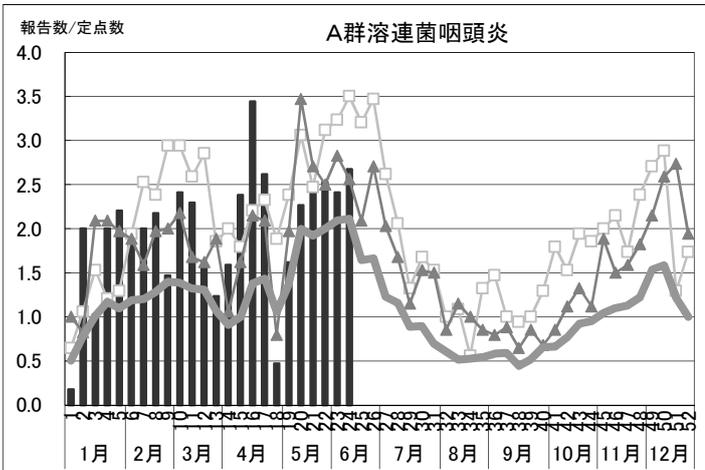
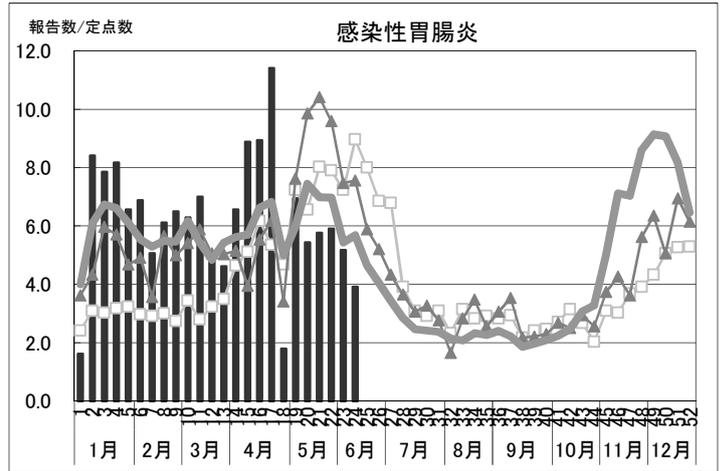
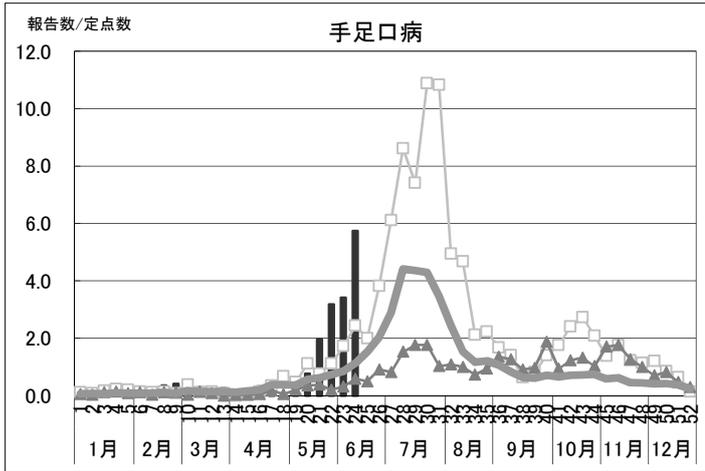
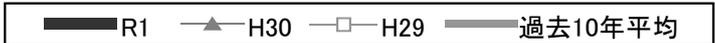
※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。  
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

上段 : 報告数  
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																					3	5641
	女						1				1	1			1							4	5849
RSウイルス感染症	男																					1	216
	女		1																			1	186
咽頭結膜熱	男		3	6	2			2														16	216
	女		2	3	4	1			1							1						11	155
A群溶連菌咽頭炎	男			2	6	4	9	5	10	2	7	5	8									58	916
	女			1	2	7	4	4	3	4	3	1	2			2						33	683
感染性胃腸炎	男		4	11	11	8	11	4	5	4		2	7	2	6							75	2697
	女	1	3	8	9	3	7	5	1	1	5	1	4	2	8							58	2431
水痘	男					1	2	1	1	2	1	2										10	131
	女					1	1				3		2									7	86
手足口病	男		11	45	27	12	12	1		1			2									111	364
	女	1	10	39	16	9	4			1			2		2							84	298
伝染性紅斑	男				2			2					1	1								7	92
	女				1	1			1	1				1								6	73
突発性発しん	男		5	6	1																	12	156
	女			5	2																	7	135
ヘルパンギーナ	男		2	3	2	2	2															11	52
	女			6	4				1				1									13	39
流行性耳下腺炎	男						1		1													2	18
	女												1									3	20
急性出血性結膜炎	男																						
	女												1									3	84
流行性角結膜炎	男						1															4	76
	女														1	2							
細菌性髄膜炎	男																						3
	女																						3
無菌性髄膜炎	男																					1	2
	女		1																				1
マイコプラズマ肺炎	男				1																	1	16
	女																						17
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男			1																		1	44
	女																						32

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数



## 2018/19 シーズンのA群ロタウイルスの検出状況について

### <近年のA群ロタウイルスの流行>

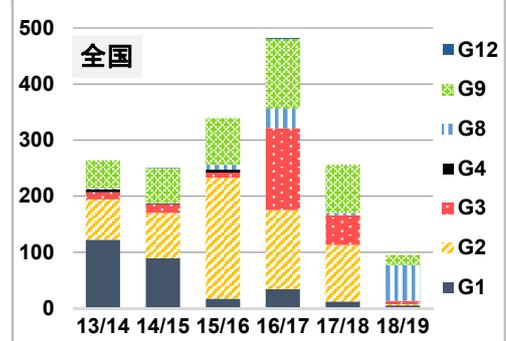
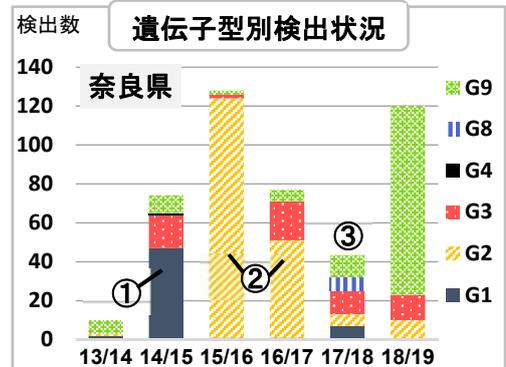
日本では2011/12シーズン（例年9月～8月までの1年を「シーズン」としています）にワクチン接種が始まりました。奈良県ではその後2013/14シーズンに患者数が激減しましたが、①2014/15シーズンにはG1型の流行が見られ、②2015/16シーズンおよび2016/17シーズンはG2型が主流株となりました。③2017/18シーズンは2013/14シーズンに次いで検出数が少ないシーズンでした。

### <調査結果>

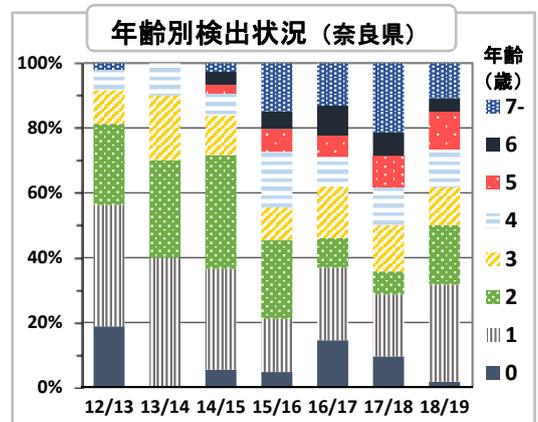
感染症発生動向調査事業において2018/19シーズンのうち、2018年8月～2019年5月10日までに検出したRVAの症例120例について、解析を行いました。検出した遺伝子型はG9型（97株、80.8%）、G3型（13株、10.8%）、G2型（10株、8.3%）でした。患者年齢は1歳代が最も多く、0～2歳代が50%を占めていました。今シーズン主流のG9型の患者平均年齢は3.4歳でした。なお、ワクチン接種歴のある患者は120例中69例（57.5%）で、1価ワクチンが32例、5価ワクチンが36例、ワクチン種不明が1例でした。接種歴のある患者の遺伝子型はG9が63例、G3型が4例、G2型が2例でした。全ての症例に下痢の症状が見られましたが、1日に5回以上下痢の症状があった症例はワクチン接種歴ありでは9例（13.0%）、接種歴なしでは15例（29.4%）でした。入院や外来点滴施行が必要となる重症例は13例で、そのうちワクチン接種歴がない患者は10例でした。遺伝子型別に見るとG2型が6例、G3型が4例、G9型が3例でした。

現在のところ、奈良県を除く他府県は2018/19シーズンではG9の割合は高くありませんが、近年増加傾向にあり、ワクチンに含まれていない遺伝子型でもあるので、今後の流行に注視したいと考えています。

今後も継続したウイルス動向のデータを蓄積し、県内の流行の変化・変動を詳細に解析・把握に努めていきたいと考えています。奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようお願いいたします。



※全国データは病原微生物検出情報2019年5月30日参考  
奈良県のデータと型別不明を除いています



<ウイルス・疫学情報担当>